

飛び出せモバイル！より広い学びのフィールドへ！

－携帯電話の教育的利用についての実践－

千葉県柏市立中原小学校 青柳和道

【企画内容と結果について】

① 学区調査隊

総合的な学習の時間の「地域の人役に立つことをしよう」という単元において、子どもたちが個別の課題をつかむ段階で、携帯電話を持って学区に飛び出す。グループの仲間や教師と連絡を取り合いながら、「学区調査隊」として役に立つことを探していく。その中で、携帯電話で撮った写真は電子掲示板に自動でアップされ、文章や画像等の情報は共有することができる。校内のパソコンで掲示板を見ている仲間と携帯電話や画像をやり取りするシステムの概略は上の図のようになっている。子どもたちの意識調査から、「納得のいく課題を見つけることができた」と満足している子と「携帯電話や電子掲示板が役立った」と考えている子とは、検定の結果高い相関が得られ、広い活動フィールドを効果的に与えることに対し、携帯電話が有効であることが明らかとなった。



② 社会科見学での実践

5年生の「私たちの生活と情報」という単元の学習で、子どもたちはNHKに社会科見学に行った。そこでは、各自が課題を解決するために目的意識を持って見学する。また、まとめとしてホームページを作成することになっている。携帯電話で撮影した写真やメール送信した文章は、電子掲示板にアップされており、友だちの送った画像や文章も利用しながら、ホームページ作りを進めた。さらに、NHK見学時に携帯電話でクイズに答えさせ、見学の視点が絞り込まない子どもたちのヒントになるようにした。携帯電話で撮った写真、デジタルカメラで撮った写真、インターネットで探してきた資料等、子どもたちは必要に応じて適切に選択しながらホームページを作成することができた。情報活用能力が身に付いてきていると考えられる。

③ 情報モラルの学習

情報モラルの学習として、実際に携帯電話を使った迷惑メールの体験や肖像権の考え方についての学習の実践をした。子どもたちは携帯電話を持って外に飛び出していくので、その場で勝手に他人の写真を撮ったり、無作為に送られてくる迷惑メールに返信するようなことがあっては困るからである。便利なものには負の部分もあることを、実感を持って理解させることが大切である。子どもたちはとても興味を持って学習することができた。また、学習後に上記の①や②の活動に入っていたが、いたずらで写真を撮ることはなかった。また、メールが送られてきた場合もすぐに開けずに、教師に連絡することができた。上の実践例は、迷惑メールの学習の実際の携帯電話上の画面である。

